

科目担当者氏名 (ふりがな) くららはらむねたか 倉原宗孝		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
連絡責任者氏名 (ふりがな) うさみせいじ 宇佐美誠史		科目設置機関名 岩手県立大学総合政策学部総合政策学科	
授業科目名 地域環境調査実習	科目認定番号 IWKa-150801-0	受講者数 16 人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：岩手県宮古市においては教育・環境施設である野外活動センターの閉鎖に伴い、併設するスケート場なども含めた今後の利活用の方針が検討されている。このことについて現地・周辺環境の観察、住民・関係者からの情報収集、及び関連する全国の施設状況などの情報収集を通じて、閉鎖された施設・環境の活用方針について有効な提案、情報が提供出来たと考える。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

岩手県宮古市野外活動センター及びその周辺環境

2. 調査の内容/概要：

現地観察、体験 (移動手段)、各種情報の収集

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：グループにより現地施設および周辺環境の観察、地元住民・関係者からの情報収集、全国の各施設のユニーク・有効な活用・運営方法のネット調査、などを行い、それらを検討、まとめた上で、地元関係者に対して提案を行った。

4. 主な調査項目：

現地観察、体験、ネット等による情報収集

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：

現地観察・各情報を通じて評価・課題、改善提案などを行う。主にネット情報をもとに全国の活用・運営方策を探る。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2015 年 11 月 27 日～12 月 24 日・岩手県宮古市野外活動センター及び周辺環境・16 人

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：

各データ・提案は住民・関係者にとって従来から考えていたことの確認と共に若者世代からの意外な発想・提案もあり今後参考になる有効な内容だった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

独自にデータの解釈は行っていないが参加者・外部関係者の評価から有効と判断される。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

施設関係者の共感、示唆を与えたことは大きい。

10. 報告書刊行の予定と概要：

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ず A4 サイズ 1 枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず (設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報を DB 化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。